

機関番号：32664

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530283

研究課題名（和文） 東アジアの経済発展と国際資本市場

研究課題名（英文） Economic growth and international capital market in East Asia.

研究代表者

田端 克至（Katsushi TABATA）

二松学舎大学・国際政治経済学部・教授

研究者番号：40277702

研究成果の概要（和文）：

本研究はアジア諸国における金融発展が経済成長にどのように影響するのか、検討している。1997年の金融危機以降、アジア諸国は金融改革と規制緩和を推し進めてきたが、このことが、この地域のクレジット・チャンネルに大きな変化を引き起こしているものと思われる。我々は、この点を、動学的一般均衡アプローチなどを用いて検証した。結論として、先進国とアジアとの金融協力が極めて重要な課題になっていることを明らかにしている。

研究成果の概要（英文）：

This study investigates how the financial development in Asian countries has influenced to the economic growth. We infer that financial reforms and deregulation urge to change the credit channels after Asian financial crisis of 1997. This study challenges to apply DSGE (Dynamic Stochastic General Equilibrium) to Asian financial market. We contend that cooperation between developed countries and Asian countries is vital.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	300,000	90,000	390,000
2009年度	300,000	90,000	390,000
2010年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	900,000	270,000	1,170,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・財政学・金融論

キーワード：国際金融、アジア、国際資本移動、国際資本市場、DSGE、オープンマクロ経済学

## 1. 研究開始当初の背景

米国をコアとする経済・金融のグローバル化は、アジアの金融市場にも深刻な影響を及ぼしている。その中で、アジアでは資本市場の育成のためのプロジェクトがチェンマイ・イニシアチブによって、具体的に稼働している。こうした環境にあって、アジアの証券市場の発展やクレジット・チャンネルの多様化はど

のように影響しているのか、学際的研究が強く求められていた。

研究開始直前には、研究者はアジア開発銀行の信用保証メカニズムを設計するプロジェクトに参画させて頂き、こうした研究の深まりこそが、アジアの金融の在り方を議論する上で極めて重要であると痛感していた。

## 2. 研究の目的

本研究は、研究ニーズの高まりを踏まえて、アジアの金融、特に資本市場の拡大が、どのような経済的インパクトをもっているのか、検討することにあつた。

さらに、研究開始後まもなく、米国発のサブプライムローン問題が発生した。この原因の一つとして、アジアの大量の資金が、米国の住宅購入資金に充てられ、バブルとその後の金融崩壊を引き起こす契機になったという指摘があつた。この点を踏まえて、サブプライムローンをアジアサイドの視点から眺めることも、追加の研究目的に加えた。

## 3. 研究の方法

### (1) フィールド・ワーク

研究方法としては、長期データの収集、フィールド・ワークを行った。特に、アジア回廊と呼ばれるミャンマー・カンボジアなどでの企業活動を調査し、金融市場の整備が経済発展にどのように影響するのか、本格的経済発展の前段階にある国での金融市場発展のためのアプローチを、ミャンマーを中心に調査した。

本件の研究とは異なるが、こうした地域ではマイクロ・ファイナンスと呼ばれる特殊な金融ツールが注目されており、本件ではこの点についても、調査した。

さらに、アジア諸国の一部では、出稼ぎ労働者の労働者送金 (remittances) が、金融深化に影響を与えている面もあることから、フィリピンなどで労働者送金に関する考え方を、中央銀行等に聞き取り調査した。

### (2) 計量モデル等を用いた理論的研究

DSGE (Dynamic Stochastic General Equilibrium) は、1990 年以降、マクロ経済学で最も進歩した分析ツールである。本研究では、この研究成果を積極的に取り入れ、アジアにおける金融モデルを作成した。そのモデルを用いて、本研究の目的である経済成長や景気循環と金融との関連性について、議論を深めるアプローチを採用した。

## 4. 研究成果

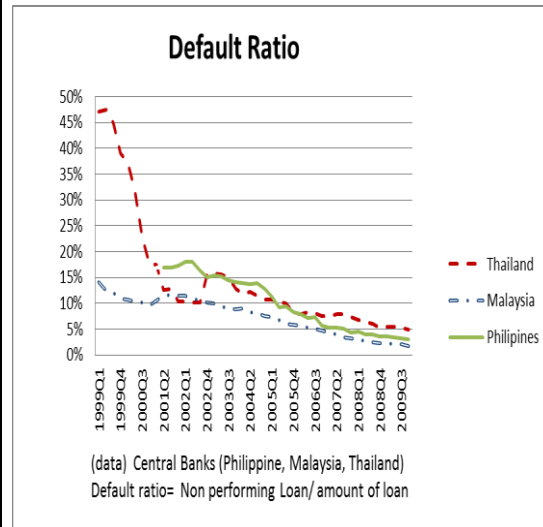
本研究は、幾つかの論文に分けて研究成果を報告している。現在、manuscript として報告している論文は、海外ジャーナル等に投稿中である。

### (成長と金融の研究成果)

アジアの金融発展と経済成長との関連性について、我々は興味深いアジア諸国共通の現象を発見した。

アジア通貨危機以降、アジアの銀行ローン・デフォルト率が急激に低下している。一方で、こうしたローン市場の環境改善にも関わらず、預貸率 (Loan/deposit) は低下傾向にある。

これこそが、アジア通貨危機以降、アジアの金融機関に顕著に観測されるクレジット・チャンネルの変化によって発生した現象であ



ると考えられる。

アジアでは、金融の規制緩和、市場メカニズムの活発化した結果、銀行資産がローン⇒海外証券保有にスイッチングすることになったからである。

さらに、こうしたローンからの資金シフトが、過剰な銀行ローンの発生を抑制するように働いたという知見を得た。

ただし、この資金がアジアから米国へ流れたことで、米国の住宅ブームを引き起こすことになった可能性は否定できない。

この様な資金のグローバル化という結果を踏まえて、アジアと先進国が協力する体制を強化する必要性を訴えている。

### (海外送金)

アジアの海外送金は、急激に拡大している。アジア太平洋地域で、その総額は620兆円にのぼるとされており、発展途上国の金融の重要な資金フローの源泉になっている。本研究の研究成果は、これがアジアの経済発展にどのように影響しているのか、モデルを用いて検討したことにある。

さらに、その結果を踏まえて、労働者送金の平均銀行残高を、証券化し、開発資金などに充当させるという具体的な活用方法を提案している。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計5件)

①学位論文

国際通貨制度と資本取引の役割 2009年  
千葉大学 pp. 1-111 査読有

②BIS conference Paper  
Katsushi TABATA, Noriyuki SUZUKI and  
Akifumi NAKANISHI,  
“Remittance and Financial Depth in Asian  
Countries”, 2009 March 査読有

③ Katsushi TABATA Akifumi NAKANISHI  
“Bayesian Dynamic Stochastic General  
Equilibrium Approach on Remittance and  
Economic Impact in Asian Countries,”  
Manuscript for Japan Economic Association  
Presentation 2010

④ アジアの景気循環と銀行部門  
—国際資金フローの役割を踏まえて—  
金融学会（神戸）発表論文 2010 10月

⑤ Katsushi TABATA “Asian Banking  
Behavior and Business Cycles”,  
Manuscript, 2011, March

[学会発表] (計4件)

① フィリピン中央銀行 国際コンファレンス  
2009年 3月  
Remittance and Financial Depth in Asian  
Countries. フィリピン マニラ

② コメンテーター 日本経済学会  
2009年6月 京都大学  
Structural FAVARS による世界経済の要因分  
解（日本経済研究センターへのコメント）

③ Bayesian Dynamic Stochastic General  
Equilibrium Approach on Remittance and  
Economic Impact in Asian Countries.  
日本経済学会 2010年 5月 千葉大  
学

④ アジアの景気循環と銀行部門  
—国際資金フローの役割を踏まえて—  
日本金融学会（招待講演） 2010年 10月  
神戸大学

[図書] (計1件)

現代の金融 昭和堂 藤原洋二編 2009年  
第8章 国際金融の仕組み pp189-211  
[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等  
<http://homepage3.nifty.com/ykteconpr/>  
(個人HP)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

田端 克至 (Katsushi TABATA)

研究者番号：40277702